

生涯教育研修活動報告書

病理検査研究班

- 1 実施日時：2023年7月30日 12時30分～16時00分
- 2 会場：学校法人明星学園 国際医療専門学校 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：凍結切片作製の実習・やってみよう川本法！
～適切な標本作製のために必要な知識と技術～
- 4 講師：島田 真由（ライカマイクロシステムズ株式会社）
松本 祐弥（獨協医科大学埼玉医療センター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員29名 賛助会員2名 非会員1名
- 7 出席した研究班班員：関口久男、森田繁、高橋俊介、細沼佑介、今村尚貴、遠山人成、
松本祐弥、小島朋子

8 研修内容の概要・感想など

今回は「凍結切片作製の実習・やってみよう川本法！～適切な標本作製のために必要な知識と技術～」をテーマに、実に5年振りとなる現地での実技研修会を開催した。

島田氏からは、凍結組織標本作製の基礎として、検体の凍結手技からクライオスタットの操作方法、切片の薄切方法やアーチファクトについて説明された。氷晶形成によるアーチファクトを防止するために、最大氷晶形成帯をいかに早く通過し凍結させることが大切であり、少量のコンパウンドで検体を凍らせてから包埋皿に入れ凍結させる2段階凍結方法がお勧めであるとのことであった。

松本氏からは、凍結・包埋時のトラブル対処法及び実習で行う川本法について解説された。過冷却による薄切時のすだれやブロックのひび割れ等、実際のトラブル発生時はどうようになるのかを写真を用いて説明、及び対処法を解説した。また、川本法についても、作製手技を動画を用いて解説した。

実習では、参加者が一人ずつクライオスタットで実際に薄切を行い、川本法で作製した切片を各自へマトキシリン・エオジン染色し、封入、鏡検した。参加者が自施設以外の技師の手技を見ることは大変貴重であり、指導や見学等を通じて得られるものは多かつたのではないかと思われる。また、暫く Web 研修会が続いていた中で開催された実技研修

会ということもあり、感染対策はしながらも、実習を通じて技師同士の交流の場にもなったように見受けられた。

本研修での川本法は凍結切片作製においては標準的な方法とは言い難いものの、手法の幅を広げる一端となったのではないかと思う。今回の研修会を通じて参加者の技術向上、および業務への一助となれば幸いである。

提出日；2023年8月3日

文責：小島朋子